

第6次環境ボランティアプラン【2017～2020年度】 資源循環

領域	項目	2020年度までの 目標・取り組み	2019年度		2020年度 目標・取り組み	
			目標	実績		
商品	リサイクル性の向上	◆自動車リサイクル法への対応を継続 ◆部品取り外し性・材料分離・分別性向上への取り組みを継続	◇新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2020年度リサイクル実効率95%に貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・PHEV 車等の大型Li-ion 電池含めたリサイクル配慮設計を継続推進する ・易解体性を配慮した車種開発を継続推進する ・社会環境と法規動向を把握し、プラスチック部品への再生材活用を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度もリサイクル実効率95%以上を継続達成(99.4%) ・リサイクル設計ガイドラインに、軽量化目的のCFRP部品採用が増加のため、CFRP部品に関するリサイクル設計の考え方を追加/改訂した ・リサイクル配慮設計を織り込んだ技術開発を推進した 	<ul style="list-style-type: none"> ・MHEV/PHEV等販売に合わせて大型駆動用電池の回収スキームを必要な地域に対し構築していく ・易解体性を配慮した車種開発を継続推進する ・社会環境と法規動向に沿った樹脂部品への再生材活用を継続推進する
		◆CFRP リサイクル技術への取り組み	◇CFRP 製品の易解体性に関する技術開発の推進	易解体性を配慮した技術開発の推進を継続する	CFRP部品の先行開発において易解体性に配慮して開発・設計する取り組みを開始した	易解体性を配慮した技術開発の推進を継続していく
	ライフサイクルアセスメントの推進	◆ライフサイクルアセスメント(LCA)データの公開を推進	◇フルモデルチェンジ車からLCAデータの公開を推進	2019年度は公開する該当車種無し	2019年度公開該当車種は無し	2020年のLCA公開該当車種は、発売予定の新型レヴォーグのみ
生産	国内販売特約店・解体業者	◆処理困難物(駆動用電池等)の処理スキーム確立	◇リサイクルと適正処理の強化	リサイクル・処理高度化の推進と実証実験を継続実施する	廃棄駆動用リチウムイオン電池のリサイクル実証実験および国内の処理運用前のトライアル処理を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・国内：廃棄駆動用リチウムイオン電池処理の運用開始 ・廃掃法における広域認定制度拡大と活用
		◆廃棄物の適正処理、発生量抑制の維持管理を継続	◇廃棄物の適正処理と、歩留まり向上・荷姿改善などによる発生量抑制の維持管理を継続	2019年度産廃量目標19,731.8t。廃棄物の適正処理と、歩留まり改善による発生量抑制の維持管理を継続する	2019年度産廃量実績19,861.5t。(対目標129.7t増)廃棄物適正処理と、発生量抑制を継続	廃棄物の適正処理と、分別による発生量抑制を継続
	生産工場	◆国内外生産工場のゼロエミッションを継続(直接、間接を問わず埋め立て処分量ゼロレベル)	◇国内外生産工場のゼロエミッションを継続	埋立ゼロ継続 ゼロエミッション継続	日：埋立ゼロエミッション維持 米：2004年以来継続して埋立ゼロを達成 15周年の節目として、15本の植樹を実施した	埋立ゼロエミッションの継続
	◆国内外生産工場における水使用量を管理	◇国内外グループ企業を含めた、生産工場における水使用量を管理	国内外生産工場における水使用量の適切な管理を推進する	実績管理を実施	国内外生産工場における水使用量の適切な管理を推進していく	